

令和 3 年 8 月 17 日現在

機関番号：17601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03452

研究課題名(和文) 国際協働学習ネットワークによるグローバル英語ライティング教育システムの構築

研究課題名(英文) Constructing a Global English Writing Education System through an International Collaborative Learning Network

研究代表者

横山 彰三 (Yokoyama, Shozo)

宮崎大学・医学部・教授

研究者番号：60347052

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,500,000円

研究成果の概要(和文)：本プログラムは4つのステージに分かれ、各ステージでは一般的な医療や健康に関する内容を扱っている。参加者は自分の考えを短い英文エッセイとして書き込む。掲示板形式になっているので、書き込まれた英文に対してそれに興味を持った他の参加者が自由に返信を書き込めるようにした。価値観や信念、医療に関する文化的側面などについてエッセイライティングを通しての学びについて、参加者はおおむね肯定的に捉えていることが明らかとなった。医師の倫理や社会性、コミュニケーション能力を医学教育の観点から考える時、本研究が果たした役割は大きいと考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

私たちは自分が何を信じ何に価値観を置いているかを知るには、他者との交流が欠かせない。「自己は他者と対峙するとき、はじめてその独自の姿を浮き彫りにする」「他者が押し迫って初めて自己は姿を見せる」「他者とは実在する他者ばかりとは限らない」と言われるように、私たちは他者の森を駆け抜けて自己になる。その意味において、本論で扱ったオンライン上でのライティングを通じた海外の医学生との交流は、「医療者としての態度や価値観」を醸成させることに繋がり、真の医療者とは何かを多面的に意識し自己に問い続ける態度やマインドセットを形成させ、意識変容を促した。

研究成果の概要(英文)：This program is divided into the following four stages, 1) Stage 1: Self Introduction and Why I am Here, 2) Stage 2: Organ Transplant, 3) Stage 3: Poverty and Health Care, and 4) Stage 4: Becoming a Doctor and Compassion. Each stage deals with general medical and health-related content. Participants write their opinions as a short English essay. Since it is in the form of a bulletin board, other participants who are interested in the written English text can freely write a reply. It became clear from participants' feedback that they generally took a positive view of learning through essay writing about values, beliefs, and cultural aspects of medical care. Accordingly, we believe that this study played a major role in supporting to establish the ethics, sociality, and communication skills of future medical doctors from the perspective of medical education.

研究分野：言語学

キーワード：国際協同学習 英文ライティング コーパス分析

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

2023 年からの米国の医師国家試験においては、アメリカ医科大学協会(AAMC)の基準により認証を受けた医学部卒業生以外の受験は認められないことが、米国 ECFMG(Educational Commission For Foreign Medical Graduates)から我が国に通知された。10 年後に控えた世界基準の認証評価取得の可否は、今後我国の各大学医学部の差異化へと直結する。医学教育改革においては、真の診療参加型臨床実習の実施、CBT・OSCE の標準化、特に Advanced OSCE の実施が避けては通れない。Advanced OSCE では臨床能力は言うまでもなく、医師の助言に対する患者側のコンプライアンスを高める、医師としての優れたコミュニケーション能力が今後ますます重要視されてくる。その点において、人種の多様性が高い米国では、患者に関わる人口動態的・文化的背景が患者自身の健康と健康維持のための医療実施そのものに大きな影響を与えること、そして医療者はそれを明確に理解しておくことが重要であるとの強い認識が持たれ、AAMC(2006)が Tool for Assessing Cultural Competence Training (TACCT)を策定して全米の医学教育機関に周知し、これを医学教育に反映させるよう指導している。

### 2. 研究の目的

1 年次英語教育の一部に、Moodle の掲示板機能を利用したオンライン国際協同学習を取り入れた。その内容は、いくつかの医療に関するトピックについての英文ライティングを通してアジア諸国(インドネシア、台湾)の医学生と意見交換を図るものである。本活動の目的は 1) 異文化への気づきを高め、2) 多様な価値観に対処し、3) 将来の医療者としての自身の健全な価値観や信念形成をサポートすることである。参加者は各ユニットで扱う医療に関するトピック(臓器移植の是非、なぜ医師を目指すのか、貧困と医療アクセスの問題など)について短いエッセイを書き、お互いに意見や感想を交換する。本学ではいわゆる「医学英語」の教育については、6 年次クワータにおける海外臨床留学のための EMP(English for Medical Professionals)プログラムを 10 数年継続している。一方、このオンライン交流は、AAMC や TACCT でも昨今その重要性が指摘される異文化能力(Cultural Competency)を高め、将来必要となる多様な文化的背景を背負った患者、あるいは医療者関係者自身に対応できる幅広い知性を備えた医療者育成に資するものとする。

### 3. 研究の方法

#### 3.1. 参加者と所属大学

本プログラムへの参加大学は以下の通りである。

- 1) Kaoshiung Medical University, Taiwan (台湾・高雄医科大学)
- 2) University of Brawijaya, Indonesia (インドネシア・ブラウィジャヤ大学医学部)
- 3) University of Miyazaki (Faculty of Medicine), Japan (宮崎大学医学部)

#### 3.2. プログラムスのスケジュール

本プログラムは 1 年生後期(10 月~2 月)の約半分 8 回分を使って実施した。以下の 4 つのステージに分かれ、各ステージでは一般的な医療や健康に関する内容を扱っている。それぞれのステージは課題の終了(initial posting から返信まで)に 2 週間ずつをとっている。一つのステージが終了してから次のステージがオープンする。参加者は自分の考えを短い英文エッセイとして書き込む。掲示板形式になっているので、書き込まれた英文に対してそれに興味を持った他の参加者が自由に返信を書き込めるようになっている。

- 1) Stage 1: Self Introduction and Why I am Here  
(1st week of October - 2nd week of October)
- 2) Stage 2: Organ Transplant  
(3rd week of October - 4th week of October)
- 3) Stage 3: Poverty and Health Care  
(5th week of October - 1st week of November)
- 4) Stage 4: Becoming a Doctor and Compassion  
(2nd week of November - 3rd week of November)

#### 3.3. 課題および活動

Moodle にアップされた課題を具体的に説明する。図 1 は Stage3 のトップページである。

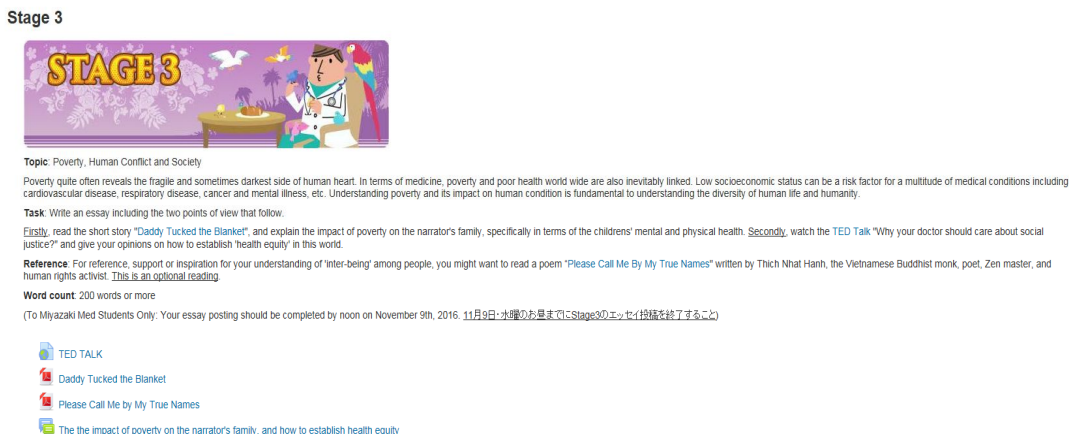


図 1. オンライン教材 Stage3 課題

このステージでは Randall Williams 作のショートストーリー “Daddy Tucked the Blanket” を読んで、貧困が家庭に及ぼす影響、特に子供の mental/physical health に及ぼす影響を読み解き、TED TALK “Why your doctor should care about social justice?” を見て health equity を確立するために医師として何をすべきなのか、の 2 点について 200 ワードのエッセイを書く。余裕のある学生は Thich Nhat Hanh 禅師の詩 “Please call me by my true names” を読んで、仏教的観点や慈悲の念から貧困の問題を垣間見る。

実際の書き込みイメージは図 2 のようになっている。

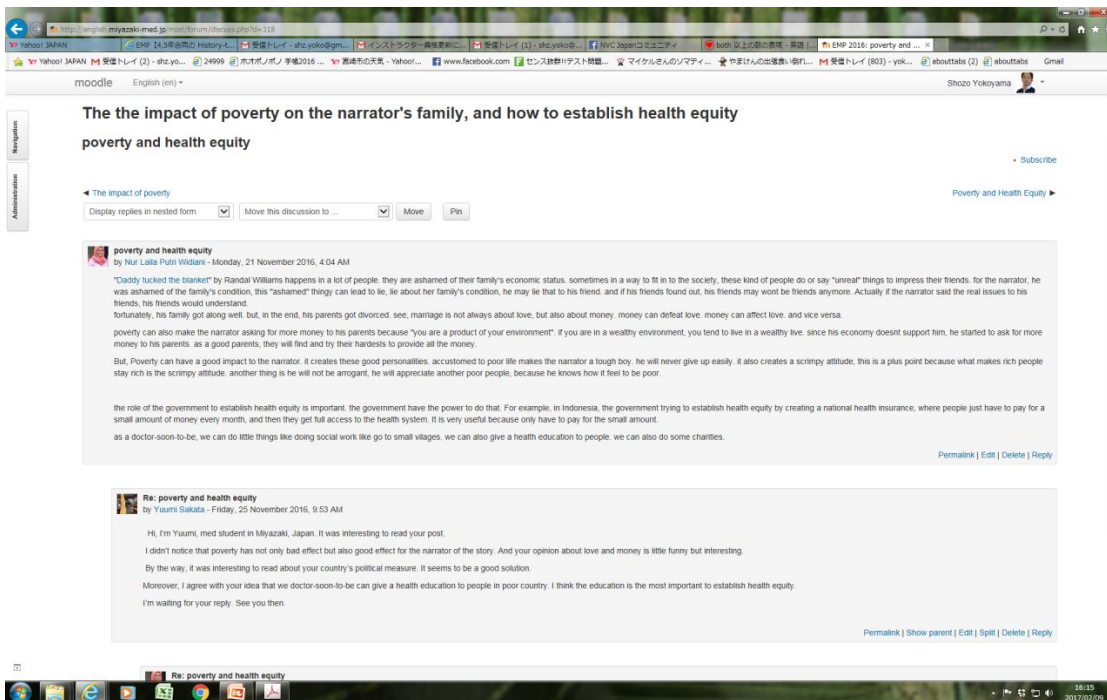


図 2. 参加者の書き込み

#### 4. 研究成果

##### 4.1. 参加者からのフィードバック

Stage3 で日本人参加者からフィードバックを得た結果について若干の分析を加えたい。質問に対する回答は 5 (強く思う) 4 (そう思う) 3 (どちらでもない) 2 (どちらかと言えばそう思わない) 1 (そう思わない) までの 5 段階スケールで準備した。質問項目が多いのでポイントを抑えるため「5」と「4」の回答%のみを表示する。

1) "I came to feel more comfortable in writing English through this program." (n=46)  
 ・ 5 (強く思う) + 4 (そう思う): 52%

2) "My English writing speed increased through this program." (n=46)  
 ・ 5 (強く思う) + 4 (そう思う): 46%

3) "I became more careful regarding grammatical accuracy in English through this program."

- (n=46)
- ・ 5 (強くそう思う) + 4 (そう思う): 71%
- 4) "I became more confident regarding grammatical accuracy in English through this program." (n=46)
- ・ 5 (強くそう思う) + 4 (そう思う): 35%
- 5) "I became more aware of vocabulary flexibility in English through this program." (n=46)
- ・ 5 (強くそう思う) + 4 (そう思う): 67%
- 6) "My vocabulary increased through this program." (n=46)
- ・ 5 (強くそう思う) + 4 (そう思う): 46%
- 7) "I became more careful regarding persuasiveness and logical thinking through this program." (n=46)
- ・ 5 (強くそう思う) + 4 (そう思う): 72%
- 8) "I developed more persuasiveness and logical thinking skills through this program." (n=46)
- ・ 5 (強くそう思う) + 4 (そう思う): 40%
- 9) "I became better able to clearly state my opinion through this program." (n=46)
- ・ 5 (強くそう思う) + 4 (そう思う): 63%
- 10) "This program was helpful for establishing my values and beliefs as a future medical doctor." (n=46)
- ・ 5 (強くそう思う) + 4 (そう思う): 61%
- 11) "I became more able to understand, agree with, or argue against others' values." (n=46)
- ・ 5 (強くそう思う) + 4 (そう思う): 78%
- 12) "This program provided me an opportunity to think in detail about the relationship between myself and society/the larger world." (n=46)
- ・ 5 (強くそう思う) + 4 (そう思う): 69%

概観すると、英文ライティングに関する技術的側面(スピード(2)、文法精度(4)、語彙(6))に関してはライティングの回数と語数が限定的であったためと思われるが、さほどの効果は感じていない。その一方で、論理性や説得性に意識を向けたり(7)、他者の意見や価値観に対して同意や反論を加えることに伸びを感じている参加者が多い(11)。相手の意見に反駁することが苦手な学生たちにとっては意義深い点である。また実際には2~3の医療トピックを扱っただけであったものの、約7割の参加者が社会や世界と自分との関わりについて深く考える機会となった(12)ようである。

さらに自由記述からいくつかを抜粋する。

- ・ I realized people made different decisions according to beliefs based on their own different cultures.
- ・ I felt that foreign medical students' learning attitudes are mature. Their assertions are well-grounded.
- ・ Through discussion, I found that the level of awareness is equally high between us, although we have different values or beliefs.
- ・ I felt that the major difference between us is not the difference of opinions but the way in which we induce or convey opinions.
- ・ I felt that my view of things is quite limited.
- ・ This exchange acted as a positive stimulus for me. I noticed we share same things in common but not everything.
- ・ Students from other countries have far higher English proficiency.
- ・ I found many expressions that I did not know I can make use of in the future.
- ・ It took time and I am not sure if I wrote understandable English, but I am happy that I was able to write my own opinions/views.
- ・ It was good that I was able to realize that I could somehow use my English and be understood. This makes me confident to some degree
- ・ I noticed anew how difficult it is to express my ideas in English. I realized I have to increase my vocabulary.

#### 4.2. 考察

価値観や信念、医療に関する文化的な側面などについてエッセイライティングを通しての学びについて、参加者はおおむね肯定的に捉えていることが明らかとなった。その一方で、文法的精度や語彙などライティングの技術的側面についてはあまり満足していない。今回のプログラムではアジア圏の大学との交流を実施した。交流先の大学はすべて10月を新学期とする欧米型の学期制であり、加えてその国特有の行事(旧正月など)により必ずしもお互いのペースが合わ

ないために、ライティングの回数も限られたものとなった。そのため途中にライティングスキルに関する教育を集中して実施する時間的余裕がなく、教師の介入も特に行わなかった。このプログラムの意図は、第一義的には異なる文化や価値観との「遭遇」と「交流」であり、その先に見えてくる自己の信念や価値観への気づきを促すことである。それをさらに深めるためにも、今後ライティングスキルの向上を目指した介入は必要であろう。

私たちは自分が何を信じ何に価値観を置いているかを知るには、他者との交流が欠かせない。「自己は他者と対峙するとき、はじめてその独自の姿を浮き彫りにする」「他者が押し迫って初めて自己は姿を見せる」「他者とは実在する他者ばかりとは限らない」(溝上, 2008)と言われるように、私たちは他者の森を駆け抜けて自己になる。その意味において、本論で扱ったオンライン上でのライティングを通じた海外の医学生との交流は、相手がアジア圏の非英語母語話者であるという点も手伝って本学学生も比較的気楽に参加できた。内容の難易度も適度に高いものであり、海外参加者のライティング力、論理性、医師としての広い視野、他者を思いやる心など多くのことを学んだようである。人は自分の物語(self-narrative)を通して自分の人生の意味をつかんでいく。そして、医学生としてまた将来の医師(doctor-soon-to be)として、これから先の人生を通して様々な失敗や拒絶にあっても学び続ける「内発的動機」が大きな鍵を握る。また日々進歩する医学知識やスキルを常にアップデートし追いついていくためには、自己学習(self-directed learning)も不可欠となる。自己学習はメタ認知力(meta cognition)なくしては成立しない(Quirk, 2006)。医師の倫理や社会性、コミュニケーション能力を医学教育の観点から考える時、本研究が果たした役割は大きいと考える。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 横山彰三	4. 巻 17(3)
2. 論文標題 医療人文学としての英語教育の可能性：貧困と医療を一つの題材として	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Medical English Education	6. 最初と最後の頁 88, 96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 横山彰三、Kathleen Brown	4. 巻 17(1)
2. 論文標題 オンライン協同学習によるアジア医学生との交流	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Medical English Education	6. 最初と最後の頁 45, 49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 横山彰三	4. 巻 12
2. 論文標題 信念、価値観、異文化への気づき－医学教育に英語教育が果たす新たな役割	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ESPの研究と実践	6. 最初と最後の頁 48, 61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 横山彰三	4. 巻 18(3)
2. 論文標題 Why do I want to become a doctor?: 日本・台湾医学生による英文エッセイライティングの計量テキスト分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Medical English Education	6. 最初と最後の頁 97, 103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 横山彰三
2. 発表標題 医療人文学としての英語教育の可能性：貧困と医療を一つの題材として
3. 学会等名 第21回日本医学英語教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shozo Yokoyama
2. 発表標題 How we can motivate medical students ab-initio: Inspiring from authenticity
3. 学会等名 CamTESOL Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横山彰三、Kathleen Brown
2. 発表標題 オンライン協同学習によるアジア医学生との交流
3. 学会等名 第20回日本医学英語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Shozo Yokoyama
2. 発表標題 The effects of online writing exchange program in developing a learner sense of values as a future medical professionals
3. 学会等名 13th Annual Cam TESOL Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 横山彰三
2. 発表標題 Why do I want to become a doctor?: 日本・台湾医学生による英文エッセイライティングの計量テキスト分析
3. 学会等名 第22回日本医学英語教育学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	Michael Guest  (Guest Michael)  (00404400)	宮崎大学・医学部・准教授   (17601)	
研究分担者	本部 エミ  (Hombu Amy)  (10755515)	宮崎大学・語学教育センター・講師   (17601)	
研究分担者	小松 弘幸  (Komatsu Hiroyuki)  (30598339)	宮崎大学・医学部・教授   (17601)	
研究分担者	南部 みゆき  (Nambu Miyuki)  (90550418)	宮崎大学・医学部・准教授   (17601)	
研究分担者	ブラウン キャスリン  (Kathleen Brown)  (70421310)	久留米大学・大学共同利用機関等の部局等・教授   (37104)	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	荒木 瑞夫  (Araki Tamao)  (20324220)	宮崎大学・語学教育センター・准教授     (17601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関